

## 5-2 東海・南関東地域の地震活動（1989年11月～1990年4月）

### Seismic Activities in the Tokai and Southern Kanto Districts (November, 1989 – April, 1990)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は、1989年11月～1990年4月の東海・南関東地域における月別震央分布、第2図(a)・(b)は1989年11月～1990年1月と1990年2月～4月の3ヵ月間ごとの震央分布、第3図は1989年1月～12月の1ヵ年間における震央分布である。

この期間、特に注目された地震活動としては、本年1月11日の滋賀県南部のM4.9\*、1月24日からの岐阜・長野県境付近の地震活動活発化（最大地震M4.3\*・1月25日）、2月12日の茨城県沖のM5.5\*（最終値M5.3）、2月18日から活発化した富山・長野県境付近の地震活動（最大地震M4.9・2月18日）、2月20日の伊豆大島近海（西方沖）のM6.5\*、4月1日からの岐阜・長野県境付近の地震活動活発化（最大地震M4.4・4月1日）などであった。これらの活動については、それぞれ別項に詳細を掲載した。各地の主な活動は次のとおり。

#### <東海地域>

特に顕著な変化はないが、一昨年後半から東海地震の想定震源域とその付近（B領域）では、M3クラス以上の地震発生が、9月4日のM3.3を除いてみられなかった。しかし、昨年後半から本年4月30日にかけて9個の地震が発生、今後の活動の推移が注目されている。この詳細については別項「東海地方における地震活動の変化」で述べる。

目をひく月ごとの主な地震は、昨年11月は東海沖の1日（駿河湾南方沖）のM4.0\*、静岡県南西部の17日のM3.1と19日のM3.0、愛知県北東部の25日のM3.1。12月は静岡県の5日（北部）のM3.8\*と26日（西部）のM3.2。本年1月は愛知県南西部の2日のM3.9\*。2月は静岡県南西部の28日のM3.4。3月は東海はるか沖の12日のM5.2\*・M4.5と14日のM3.0、静岡県南西部の26日のM3.2。愛知県の15日（中部）のM3.0と18日（東部）のM3.0。4月は東海沖の1日（御前崎沖）のM4.0\*、静岡県南西部の2日のM3.8、愛知県中部の14日のM3.2などである。

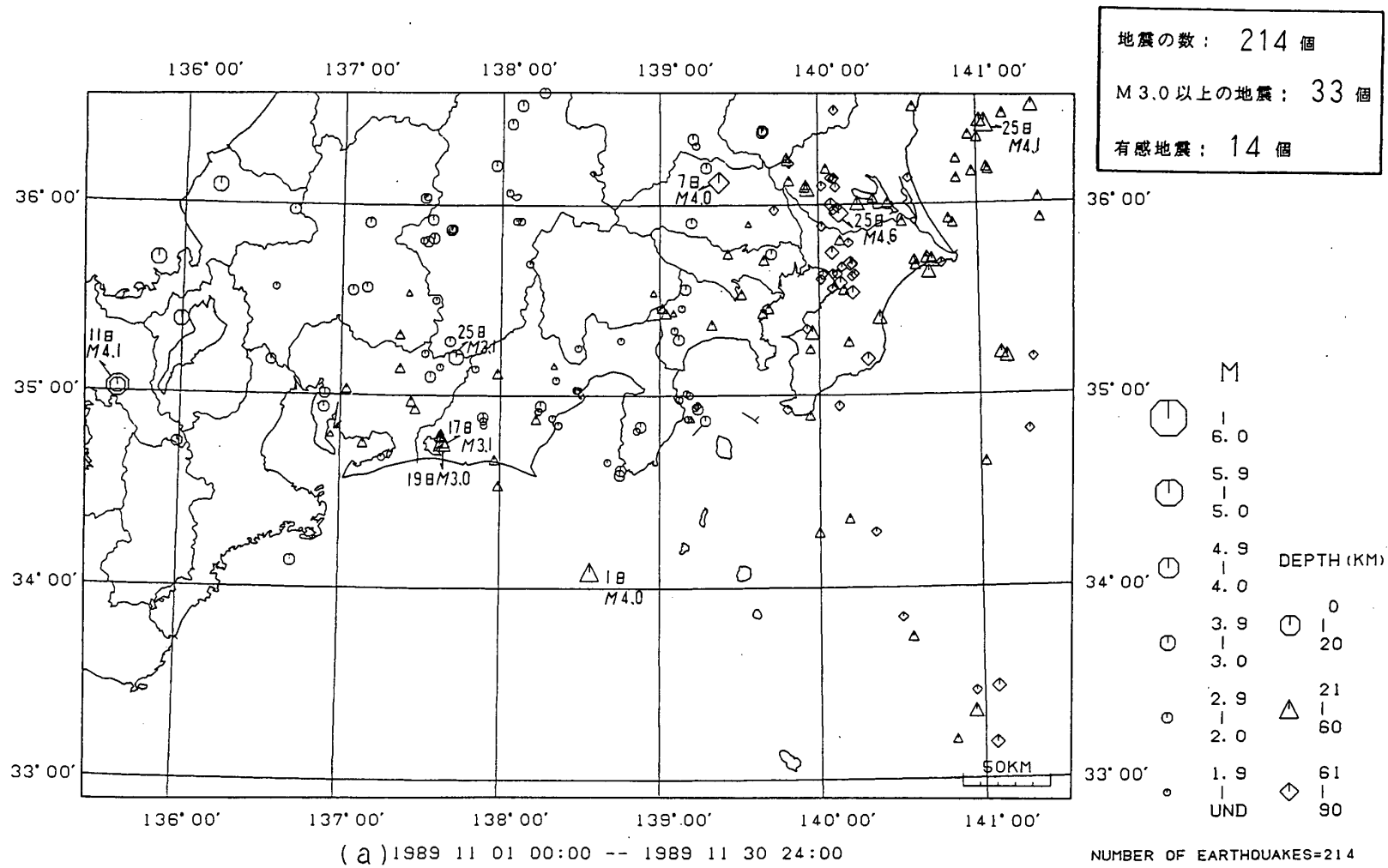
#### <東海地域周辺>

しばしば群発地震が発生する伊豆半島東方沖は、この期間比較的静かな状態が続いた。

目をひいた主な地震（M4.0以上）は、昨年11月では埼玉県北部の7日のM4.0\*、茨城県の25日（南部）のM4.6\*と同県沖の25日のM4.1\*、京都府中部の11日のM4.1\*。12月では埼玉県東部の7日のM4.3\*、茨城県沖の14日のM4.5\*と22日のM4.8\*及び25日のM4.5\*、紀伊半島南沖の17日のM4.7。本年1月では岐阜県北東部の25日のM4.3\*、滋賀県南部の11日のM4.9\*、栃木県南部の3日のM4.3\*、茨城県中部沿岸の1日のM4.3\*と同県沖の4日のM4.5\*。2月では伊豆大島近海の20日のM6.5\*、富山・長野県境の18日のM4.9、茨城県沖の12日のM5.5\*と13日のM4.7\*、八丈島東方沖の17日のM4.2\*。3月では富山・長野県境の8日のM4.4\*、茨城県南西部の3日のM4.3\*と同県沖の6日（銚子付近）のM4.1\*、八丈島東方沖の8日のM4.4\*。4月では三重県北部の13日のM4.4\*、

長野県西部の1日のM4.4, 岐阜県北東部の23日のM4.2\*, 茨城県南西部の9日のM4.6\*などの地震である。

注：M値に\*印付記の地震は、有感（気象官署）となった地震を表わす。なお、上に述べたもののほか、珍しいところで発生した地震等については、図中シンボルマークに、発生月日とM値を付記。

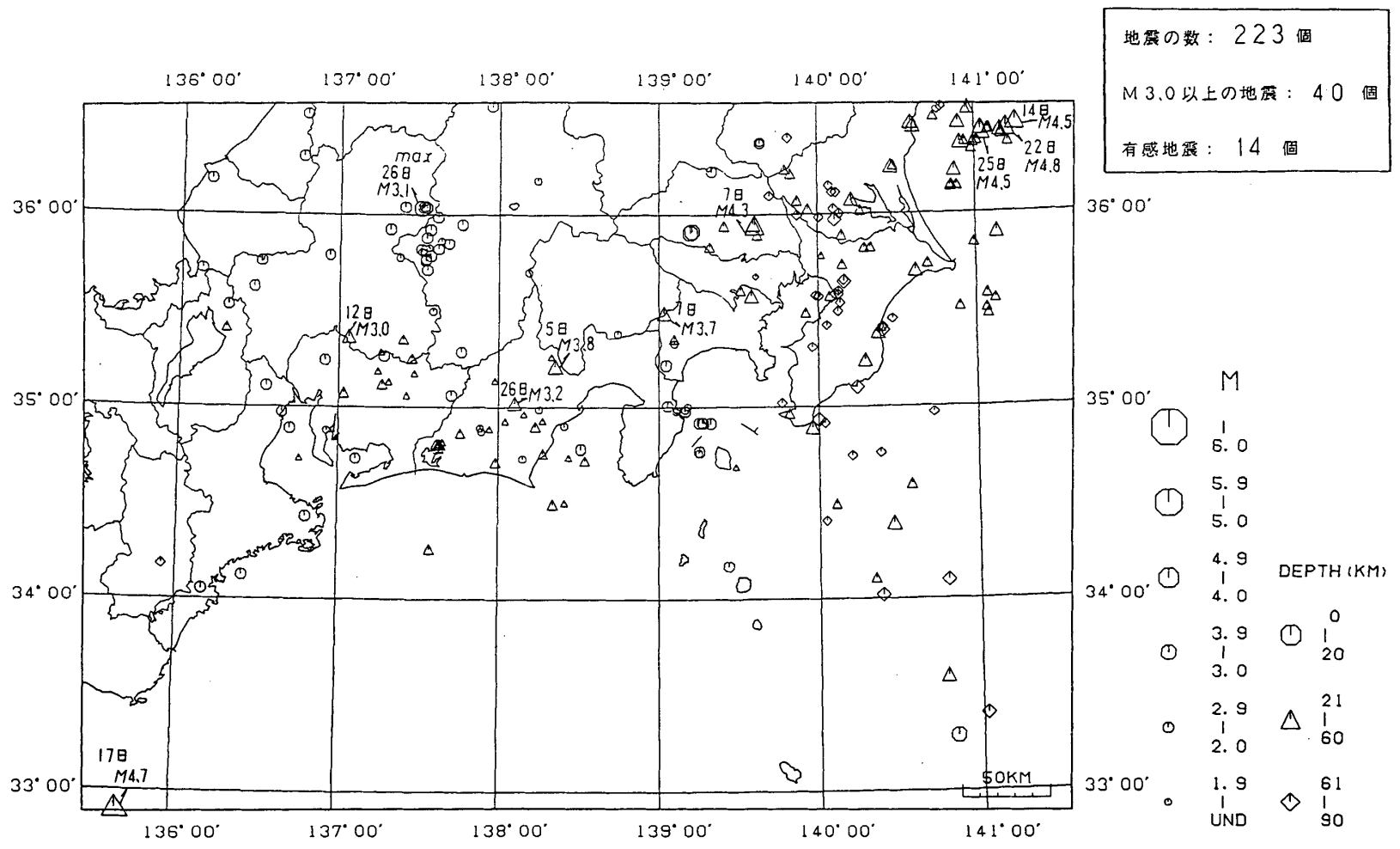


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図(a)~(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1989年11~1990年4月)

Fig. 1 (a)-(f) Monthly distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, November, 1989 - April, 1990.



( b ) 1989 12 01 00:00 -- 1989 12 31 24:00

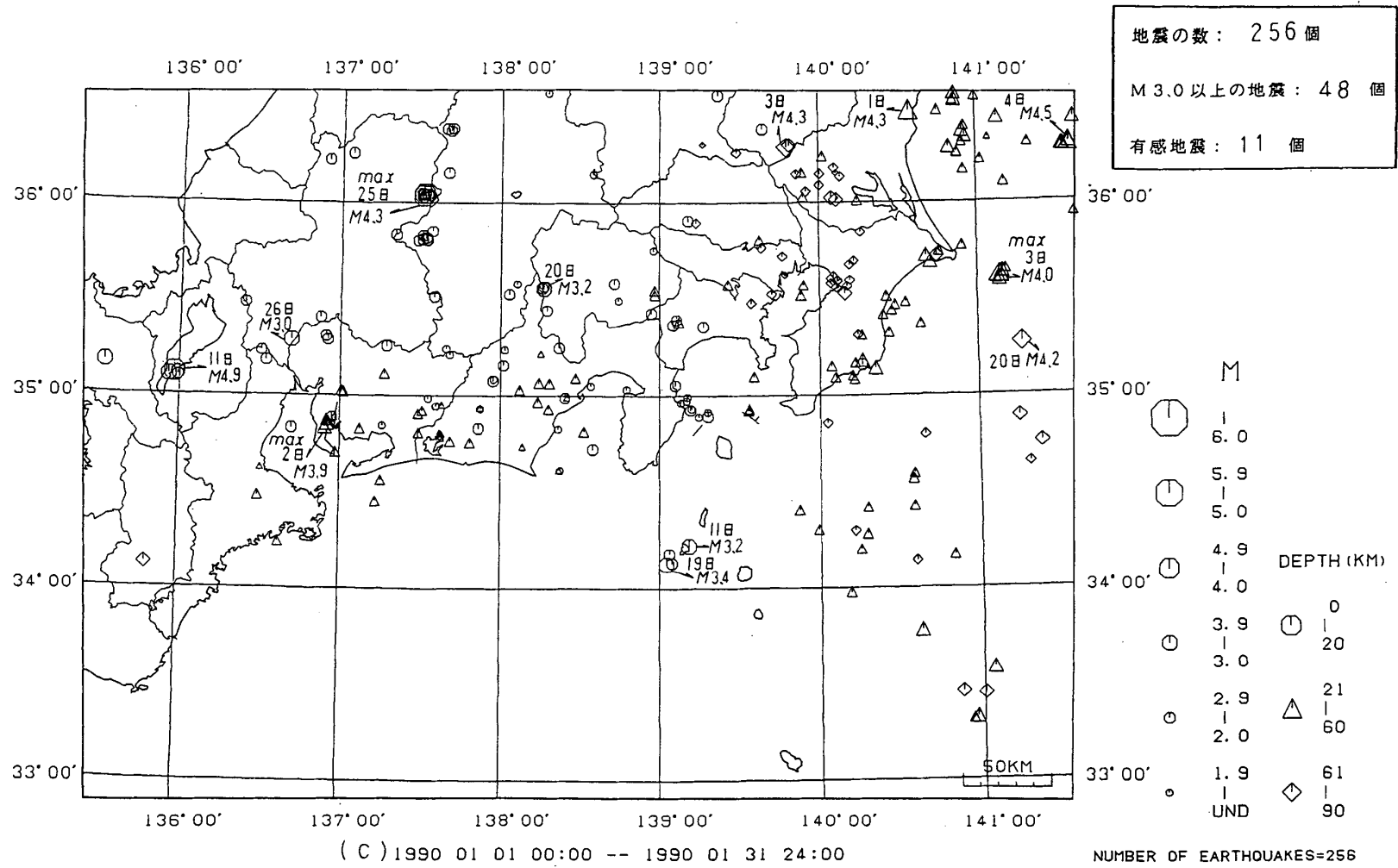
NUMBER OF EARTHQUAKES=223

暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

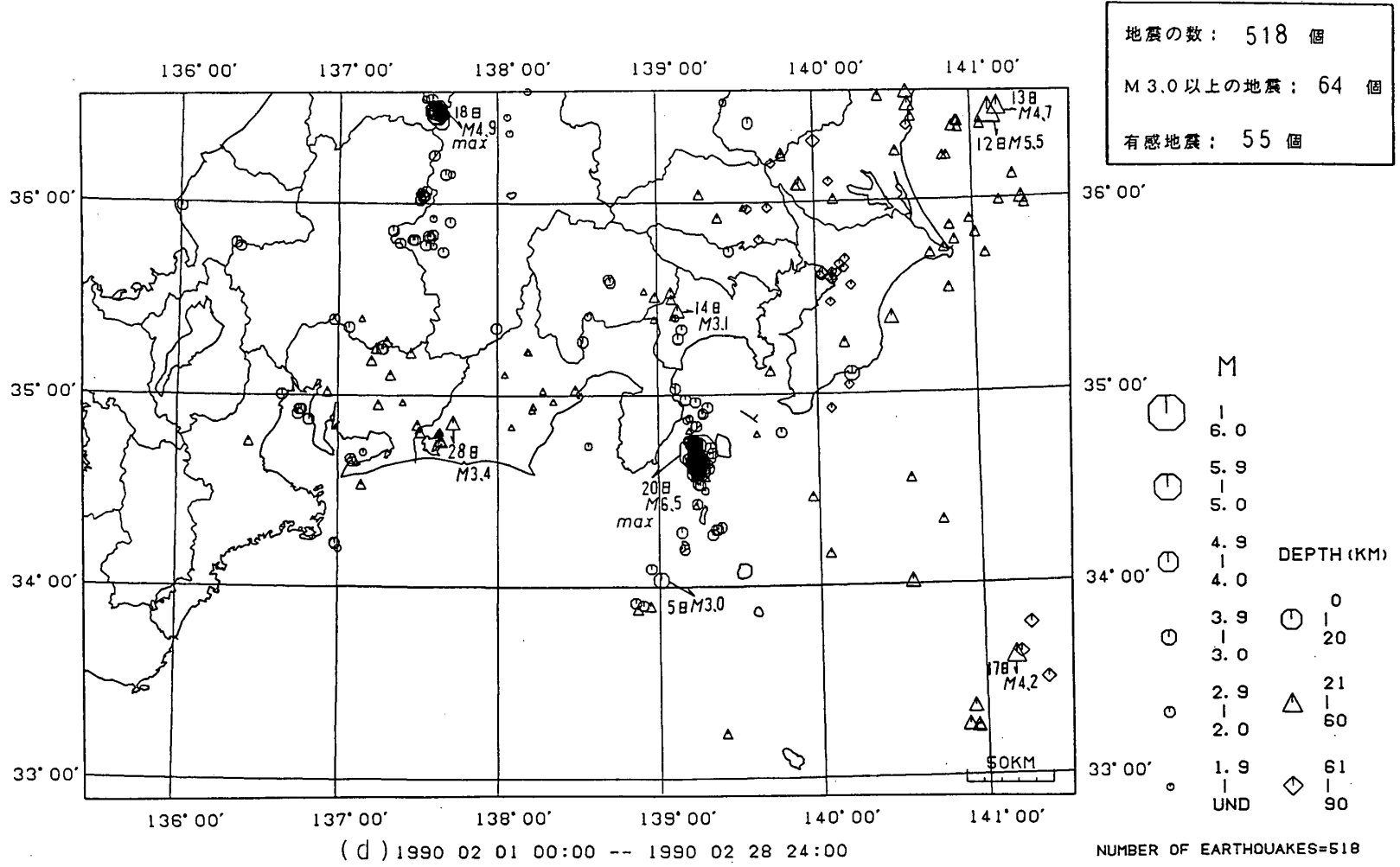


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 つづき

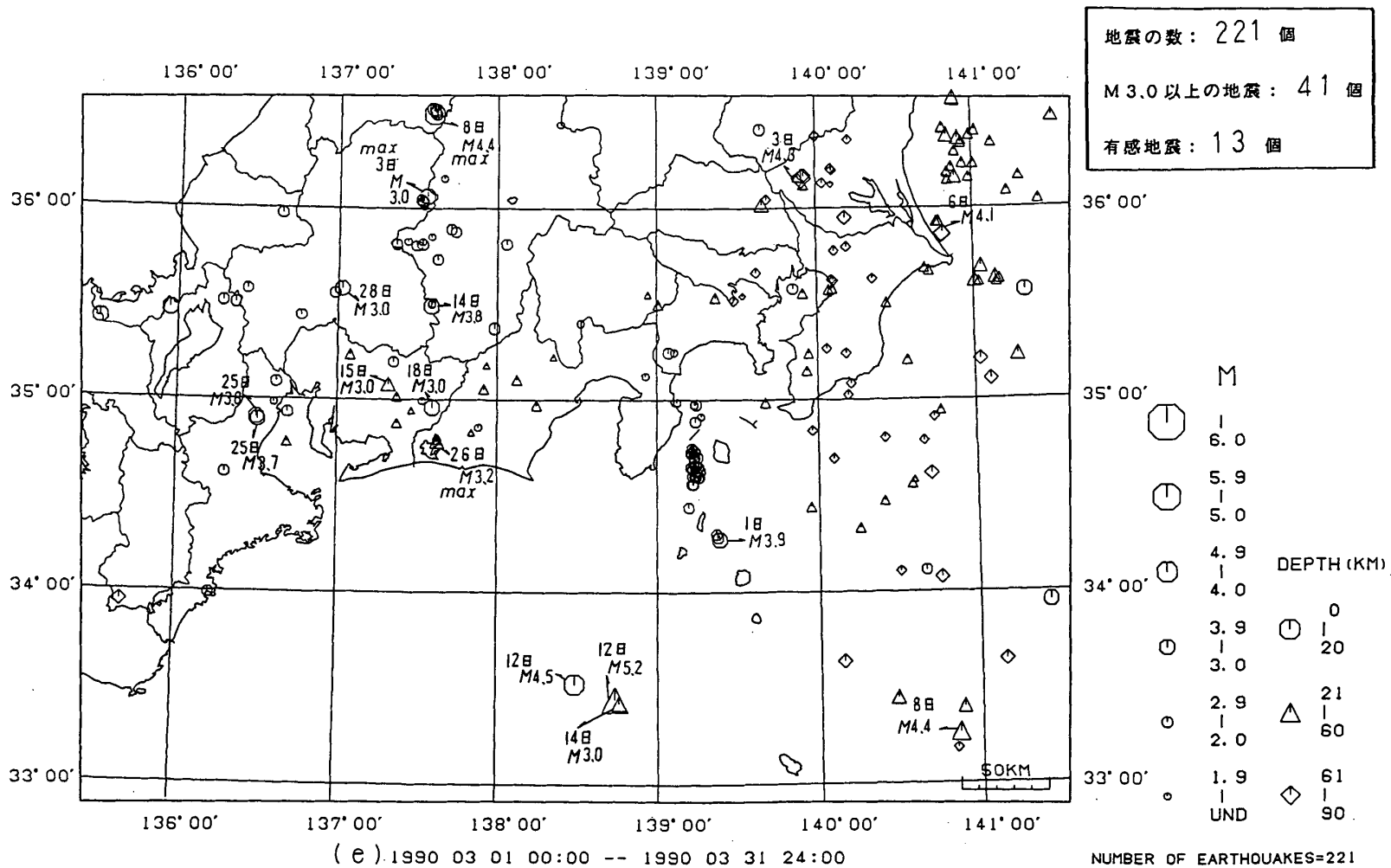
Fig. 1 (Continued)



暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 つづき  
Fig. 1 (Continued)

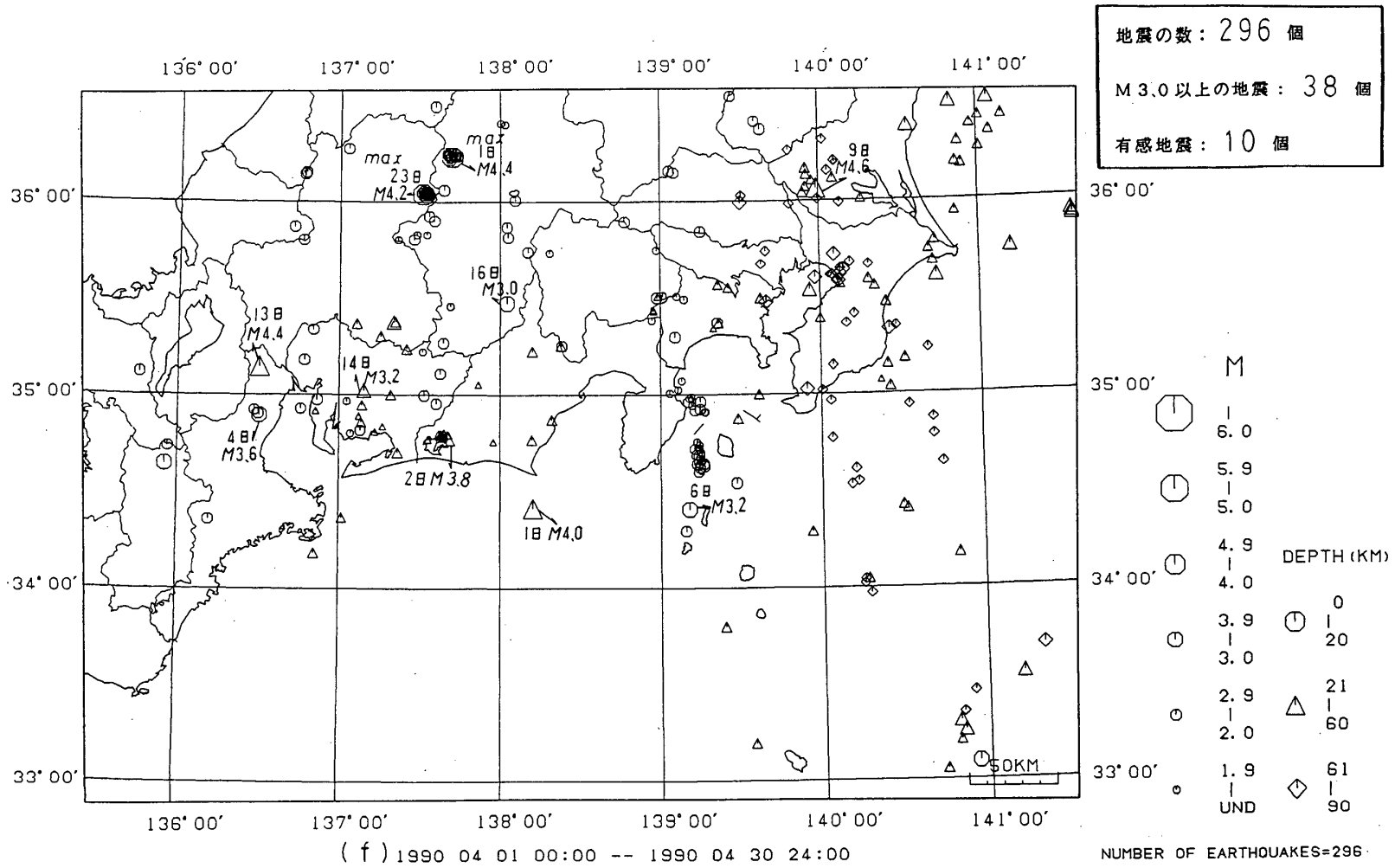


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

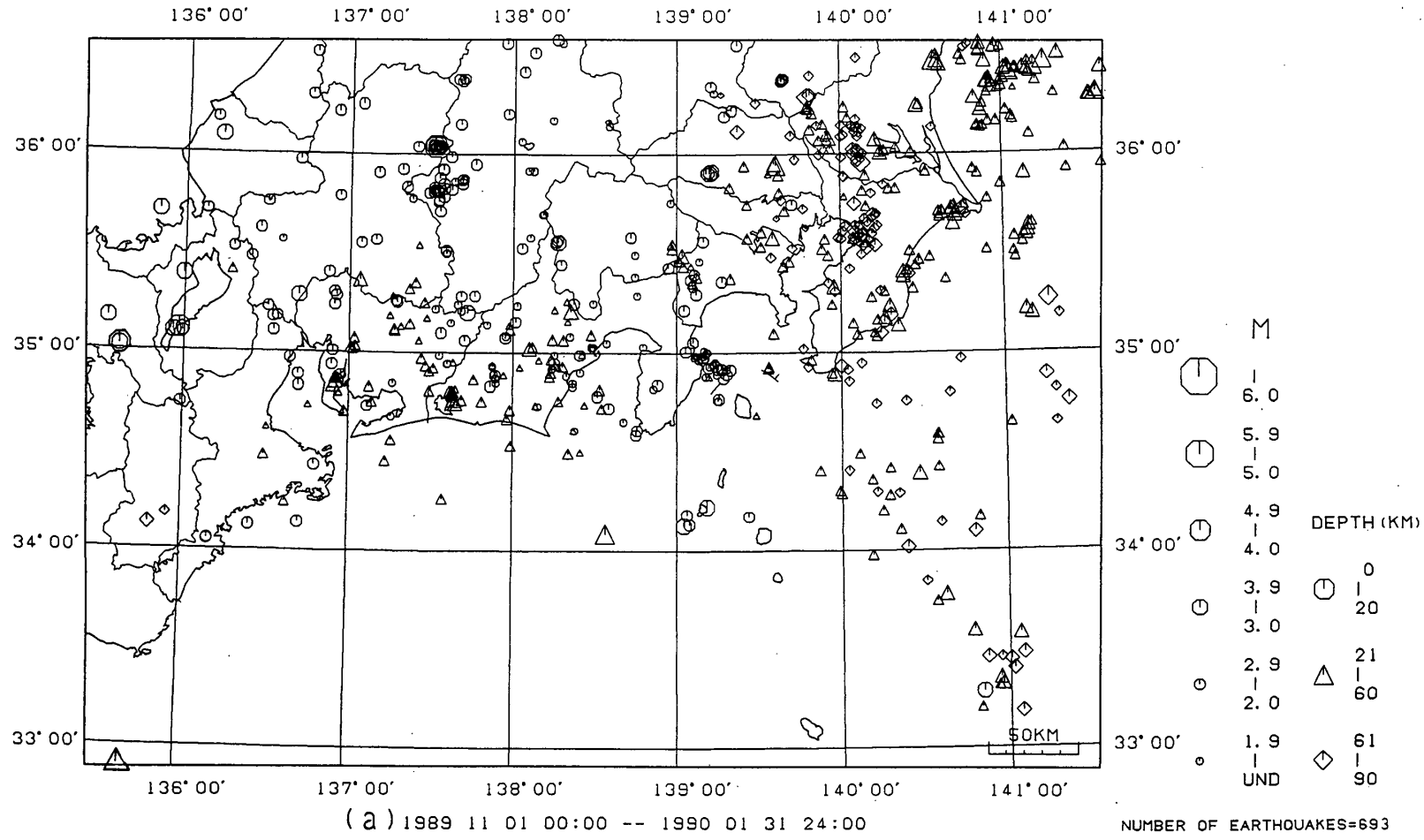


暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第1図 つづき  
 Fig.1 (Continued)



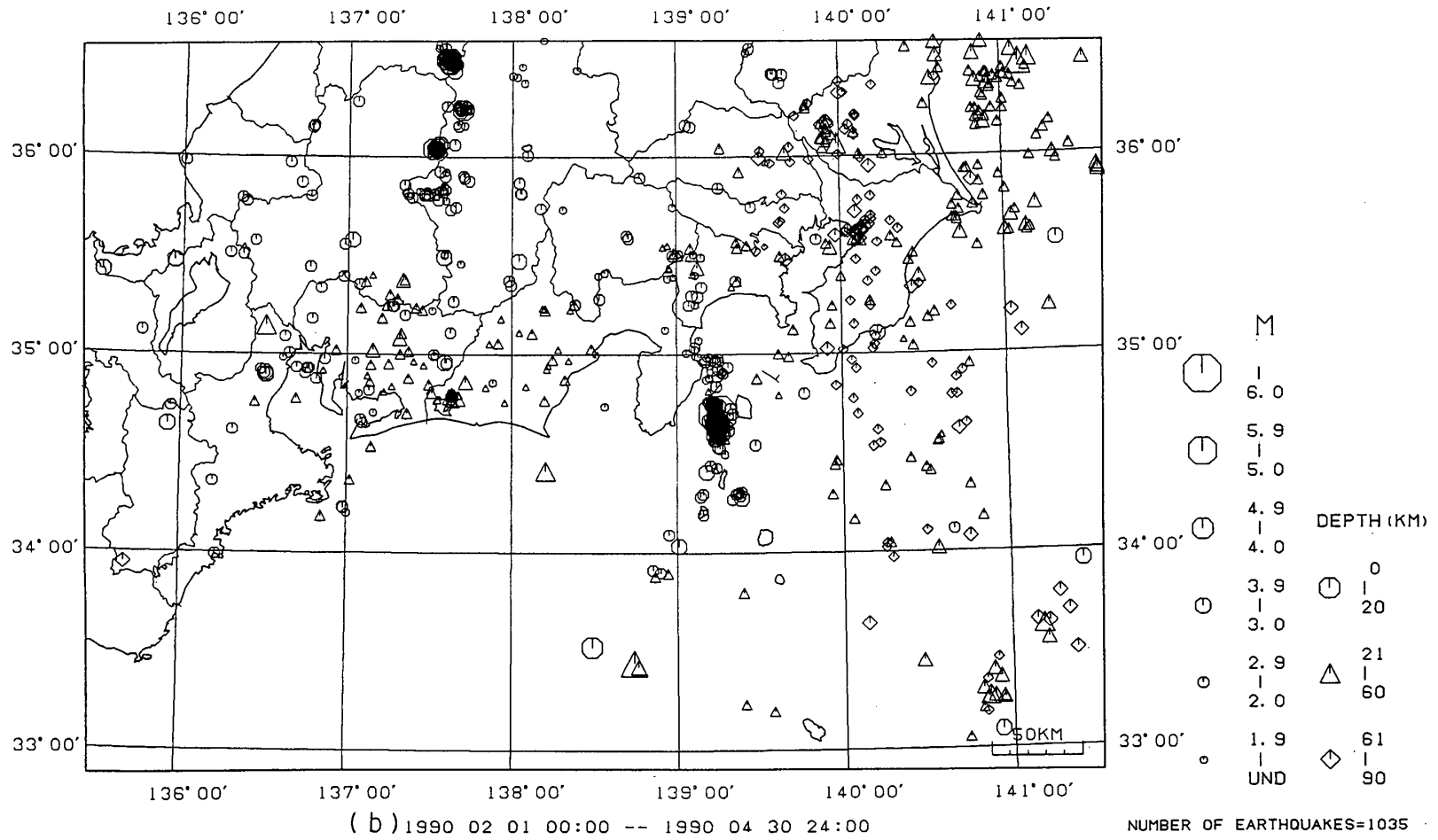


暫定

(気象庁のほか東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センターのデータ使用)

第2図(a)・(b) 1989年11月～1990年1月および1990年2月～4月の3ヵ月間の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

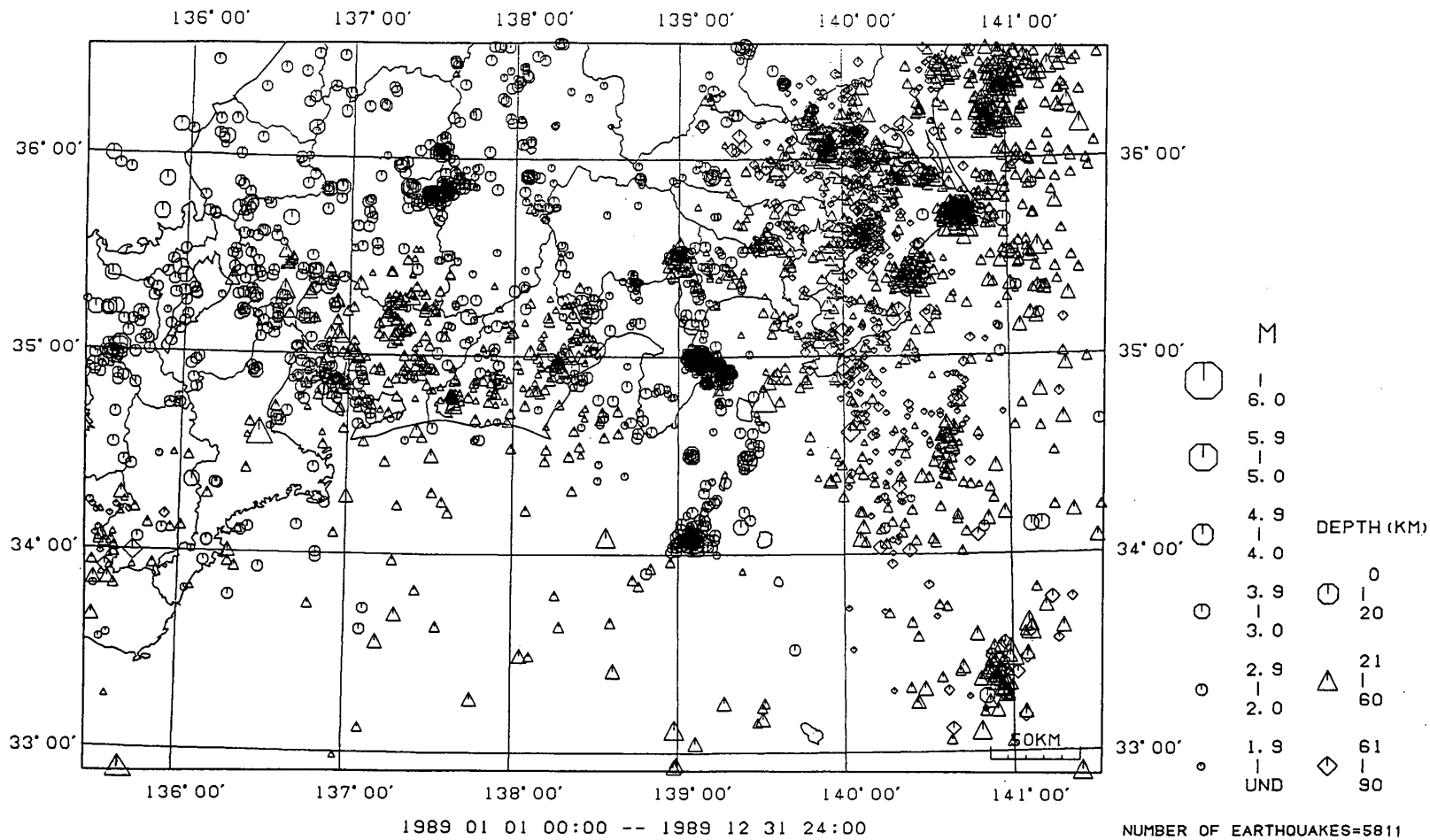
Fig. 2 (a), (b) Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts in the periods of November, 1989 – January, 1990 and February – April, 1990 respectively.



暫定

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第2図 つづき  
Fig. 2 (Continued)



暫定：'89年8月一

(気象庁及び東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

第3図 1989年1月～12月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Distribution of epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, January – December, 1989.